

事業群評価調書(令和2年度実施)

基本戦略名	5 次代を担う子どもを育む	事業群主所属	教育庁学芸文化課
施策名	(4) 我が国と郷土を愛する心や豊かな人間性、社会性の育成	課(室)長名	草野 悦郎
事業群名	創造性や独創性など豊かな人間性を育てる子どもたちの文化芸術活動の推進	事業群関係課(室)	

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文)						(取組項目)				
子どもたちの文化力の向上とそ野の拡大を図るため、市町教育委員会や中学校文化連盟、高等学校文化連盟と連携し、中高を通じて文化力を向上させる施策に取り組みます。また、文化芸術の鑑賞や成果発表の機会を提供し、子どもたちの文化活動を推進します。) 中高対象の研修会の実施や文化部活動への支援) 小・中・高校生への優れた芸術の鑑賞機会、成果発表機会の提供				
事業群	指標		基準年	H28	H29	H30	R元	R2	最終目標(年度)	(進捗状況の分析)
	「子ども県展」への応募率		目標値	64.0%	65.5%	67.0%	75%以上を維持	75%以上を維持	75%以上を維持(R2)	
			実績値	60.0%(H26)	70.7%	74.0%	78.3%	74.7%	進捗状況	
		達成率	/	110%	112%	116%	99%	やや遅れ	「子ども県展」は、市町教育委員会及び県造形教育研究会と連携し、児童生徒の図画工作・美術に対する意欲・関心を高めるとともに、創作の喜びを味わわせ、また、作品の鑑賞を通して、表現力の向上や豊かな情操の育成を図ることを目的として、県内の小・中学校及び特別支援学校小・中学部の児童生徒を対象に作品を募集し、優秀作品の表彰及び作品展を開催している。 令和元年度も、80,000点を超える応募があった。平成17年度に県の主催事業となって以降、募集方法の改善や、作品づくりの授業への組み込みなどを推進した結果、ここ数年は70%を超える応募率を維持している。	

2. 令和元年度取組実績(令和2年度新規・補正は参考記載)

事業番号	取組項目	事務事業名	事業期間	事業費(単位:千円)			事業対象	事業概要	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)				令和元年度事業の成果等	中核事業
				H30実績	うち一般財源	人件費(参考)			主な指標	H30目標	H30実績	達成率		
				R元実績	R2計画	R元目標				R元実績				
1	取組項目	中学校・高等学校文化活動推進事業費	H18-	25,810		25,810	7,972	中学校・高等学校の文化活動の推進とそ野の拡大を図ることを目的として、積極的に活動する部活動等を指定し、その活動に対する助成を行うとともに、県総合文化祭及び全国総合文化祭への参加費等への支援を実施した。		活動指標 文化活動推進校(中学校・高等学校)に指定した学校数(校) 全国中学校総合文化祭実行委員会等における諸準備に係る検討(回)	47		47	100%
				20,825	20,825	7,159	41		41		100%			
				24,340	24,340	7,975	42		/		/			
		学芸文化課					根拠法令 社会教育法第5条	成果指標 九州大会以上で入賞した中学校・高等学校部活動数(部) 大会に参加した中学生数(人)	50	48	96%			
									6,000	6,303	105%			

2	取組項目	部活動指導員配置事業費	(R2新規) R2-				県立学校	「実技指導、安全・障害予防に関する知識・技能の指導」、「学校外での活動の引率」、「用具施設の点検・管理、部活動の管理運営」、「保護者等への連絡、年間指導計画の作成」、「生徒指導に係る対応」、「事故が発生した場合の現場対応」などができる部活動指導員を県立学校に配置する。このことにより教員の多忙化解消、負担軽減を図る。	活動指標	文化部活動指導員の配置数(人)				
									2					
		学芸文化課		905	905	2,393	根拠法令	学校教育法	活動指標	文化部活動指導員の配置時間以上に教員が部活動に従事する時間数を縮減した学校の割合(%)	100			
							根拠法令	学校教育法	成果指標	配置校における当該部活動担当教員のうち負担を軽減できたと感じた教員の割合(%)	100			
3	取組項目	魅力あふれる児童生徒の作品展開催事業	H18-	2,347	2,347	5,580	小学生、中学生	子どもたちの図画工作・美術に対する意欲・関心を高めるとともに、創造の喜びを味わわせ、表現力の向上や豊かな情操の育成を図るため、県内小・中学校の児童・生徒を対象とする作品を募集し、優秀な作品の表彰及び展示(総合展・巡回展)を行った。	活動指標	子ども県展参加校数の割合(%)	100	86	86%	事業の成果 ・「子ども県展」に向けた制作を通じて、表現力の向上と、県内の子どもたちの図画工作・美術に対する興味・関心を高めることができた。 事業群の目標(指標達成)への寄与 ・成果指標目標値を超え、多くの子どもたちに創造の喜びを味わわせることが出来た。子どもたちの図画工作・美術に対する意欲・関心を高めることに寄与した。
				2,310	2,310	5,568					100	86	86%	
		学芸文化課		3,382	3,382	5,583	根拠法令	社会教育法第5条	成果指標	子ども県展応募者数(人)	81,510	85,114	104%	
										78,585	80,122	101%		
										77,860				
4	取組項目	子ども舞台芸術鑑賞事業	H18-	8,466	8,466	5,580	幼児、小学生、中学生、高校生	子どもたちの豊かな感性や情操を育み、文化活動の振興を図るため、小・中・特別支援学校の児童・生徒を対象として音楽・演劇・古典芸能など優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供した。	活動指標	青少年劇場公演数(公演)	26	26	100%	事業の成果 ・小・中・特別支援学校の児童・生徒を対象とする音楽・演劇・古典芸能など優れた舞台芸術鑑賞の機会の提供等により、子どもたちの豊かな感性や情操を育むことができた。 事業群の目標(指標達成)への寄与 ・成果指標目標値を超え、多くの子どもたちに舞台芸術の鑑賞機会を提供した。子どもたちの豊かな感性や情操を育むことに寄与した。
				8,405	8,405	5,568					25	25	100%	
		学芸文化課		8,472	8,472	4,785	根拠法令	社会教育法第5条	成果指標	青少年劇場鑑賞者数(人)	6,498	6,997	107%	
										7,563	8,236	108%		
										6,842				
5	取組項目	ながさき“若い芽”のコンサート開催費	S62-	1,913	1,913	5,580	小学生、中学生、高校生	子どもたちの豊かな心の育成と青少年の文化活動の振興を図ることを目的として、クラシック音楽を志す子どもたちの発表の機会を提供するため、ながさき“若い芽”のコンサートを開催した。	活動指標	コンサート開催回数(回)	1	1	100%	事業の成果 ・クラシック音楽を志す子どもたちの発表の機会提供として、ながさき“若い芽”のコンサート開催により、子どもたちの豊かな心の育成と芸術文化活動に取り組む人材の育成が図られた。 事業群の目標(指標達成)への寄与 ・成果指標目標値を超え、多くの子どもたちに発表の機会を提供した。子どもたちの豊かな心の育成と青少年の文化活動の振興を図ることに寄与した。
				1,959	1,959	5,568					1	1	100%	
		学芸文化課		3,160	3,160	4,785	根拠法令	社会教育法第5条	成果指標	オーディション応募者数(人)	147	134	91%	
										150	155	103%		
										152				

3.実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

中高対象の研修会の実施や文化部活動への支援	
<p>実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>中学校・高等学校の文化活動については、全国大会や九州大会において上位入賞など優れた成績を収めており、年々、文化活動の活性化が図られている。</p>	<p>課題解決に向けた方向性</p> <p>今後も、県中学校文化連盟及び県高等学校文化連盟と密に連携しながら、全国レベルで活躍できる部活動や、地域に根ざした活動を行う学校等への活動経費を支援していく。また、県中学校総合文化祭や県高等学校総合文化祭「しおかぜ祭」の開催経費を支援していく。</p>
小・中・高校生への優れた芸術の鑑賞機会、成果発表機会の提供	
<p>実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>・音楽、演劇、古典芸能などの優れた舞台芸術鑑賞事業は、鑑賞機会の少ない離島・半島地域の学校や特別支援学校を優先して実施しており、離島地域を含む多くの子どもたちに芸術鑑賞の機会を提供している。本事業は、子どもたちが優れた文化芸術に直接触れることのできる有効な施策であり、歴史・伝統・文化に対する理解を深め、豊かな感性や情操を育むため、今後も、継続する必要がある。</p> <p>・「子ども県展」は、県内小・中学校の図画工作・美術における学習活動の成果を発表する機会として広く定着し、子どもたちの目標の一つとなっている。令和元年度の応募率については、目標値にわずかに届かなかったが、子どもたちの図画工作・美術に対する意欲・関心の高揚に寄与することができた。</p> <p>・「ながさき“若い芽”のコンサート」は、子どもたちの発表機会として広く定着し、クラシック音楽を志す県内の子どもたちの目標の一つとなっている。令和元年度は、過去5年間で最多の応募があり、多くの子どもたちに発表の機会を提供することができた。</p>	<p>課題解決に向けた方向性</p> <p>・舞台芸術鑑賞事業は、今後も、周知徹底を図り、学校間の合同開催などの方法によって、多くの子どもたちに芸術鑑賞の機会を提供し、歴史・伝統・文化に対する理解を深め、豊かな感性や情操を育む機会としていく。</p> <p>・「子ども県展」は、子どもたちの図画工作・美術に対する意欲・関心を高めるとともに、豊かな情操を育成するため、県造形教育研究会との連携を密に図りながら、不参加校への働きかけを引き続き行うなど、さらなる普及啓発の改善を図る。</p> <p>・「ながさき“若い芽”のコンサート」は、コンサート及びオーディション開催地域の周辺地域にポスター・パンフレットを重点的に配るなど、効果的・効率的な広報活動に注力し、オーディション応募者のさらなる確保を図る。</p>

4.令和2年度見直し内容及び令和3年度実施に向けた方向性

事業番号	取組項目	事務事業名 所管課(室)名	令和2年度事業の実施にあたり見直した内容 (令和2年度の新たな取組は「R2新規」等と記載、見直しがない場合は「-」と記載)	令和3年度事業の実施に向けた方向性		
				事業推進の視点	見直しの方向	見直し区分
1	取組項目	中学校・高等学校文化活動推進事業費 学芸文化課	新型コロナウイルス感染症対策のため、全国高等学校総合文化祭がWeb開催となったことから、映像作成等の補助要綱の見直しを行った。		高等学校においては、令和3年度の九州高等学校総合文化祭長崎大会の開催に向け、引き続き地域や市町や学校の枠を越えて県内の文化活動の活性化を図る必要がある。 中学校においては、平成30年度第18回全国中学校総合文化祭長崎大会を契機として、引き続き文化活動の育成・強化を図るとともに、生徒の文化に対する意欲向上を継続的に図る必要がある。 また、中学校、高等学校ともに、全国レベルで活躍できる学校部活動等に対する活動経費の支援を行い、各校が切磋琢磨をしながら、さらなる大会成績向上を目指すために継続的に支援する必要がある。	改善
2		部活動指導員配置事業費 学芸文化課	R2新規		令和2年度から配置している文化部活動指導員について、本年度配置校や他県での有効な活用方法事例の情報収集を行い、更なる効果的な活用方法について検討を行う。 また、その情報や検討内容について、各種会議等などの機会を捉え県内市町へ広め、配置拡充の検討につなげる。	改善
3	取組項目	魅力あふれる児童生徒の作品展開催事業 学芸文化課	これまで県内小中学校、各市町教育委員会及び教育機関に早い段階で募集案内を送付したり、ポスター・チラシを配布するなど、広報活動に力を入れることで高い応募率を維持している。 子どもたちの図画工作・美術に対する関心を高めるとともに、豊かな情操を育成するため、県造形教育研究会との連携を密に図りながら、不参加校への働きかけを引き続き行い、さらなる普及啓発の推進を図る。		「子ども県展」は、県内の小中学校の学習活動の中で制作する図画工作・美術作品の発表機会として、県内の子どもたちに広く定着し、子どもたちの目標の一つとなっており、年々、児童生徒数が減少する中、応募率は高い水準を維持している。 今後も、子どもたちの図画工作・美術に対する関心を高めるとともに、豊かな情操を育成するため、県造形教育研究会との連携を密に図りながら、不参加校への働きかけを引き続き行うなど、さらなる普及啓発の改善を図る。	改善

4	取組項目	子ども舞台芸術鑑賞事業		音楽・演劇・古典芸能など優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより、歴史・伝統・文化に対する理解を深め、これらを尊重する態度や文化芸術を愛好する心情や感性を育み、豊かな心の涵養を図る。今後も、効果的・効率的な事業の実施を図り、優れた文化芸術の鑑賞・体験機会を多くの子どもたちに提供する必要がある。	現状維持
		学芸文化課			
5	取組項目	ながさき“若い芽”のコンサート開催費	声楽、ピアノ、弦楽器、ギター、管・打楽器の5つの部門で構成される青少年を対象とするコンクールであり、クラシック音楽を志す県内の子どもたちの目標となっている。県内の教育機関や音楽教室などにポスターを配布するなど周知徹底を図ることで、さらなる応募者の確保を図る。	「ながさき“若い芽”のコンサート」は、県内の他のコンクールには類がない声楽、ピアノ、弦楽器、ギター、管・打楽器の5部門の構成であり、子どもたちの発表機会として広く定着し、クラシック音楽を志す県内の子どもたちの目標の一つとなっている。音楽の喜びを体験することは、継続して芸術文化活動に取り組む人材を育成するうえで非常に有効であり、子どもたちの豊かな情操を養い、より豊かな人間性を育む。今後も、引き続き広報活動を実施し、オーディション応募者のさらなる確保を図る必要がある。	現状維持
		学芸文化課			

注：「2. 令和元年度取組実績」に記載している事業のうち、令和元年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- 視点 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができているか。
- 視点 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- 視点 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- 視点 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- 視点 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- 視点 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- 視点 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- 視点 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- 視点 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- その他の視点